

安平町が目指す「日本一の公教育」

日本一の公教育とは、安平町の公教育に埋め込まれた価値観や文化、知識に触れることを通して、町民が自らの人格を陶冶※するとともに、生涯にわたって自分らしく生きていくことを主観的に実感できる教育環境を指す。

※陶冶（とうや）＝人の生まれ持った資質や才能を円満に発達させること

自分で自分をつくる
(人格の陶冶)

安平町が
大切にしている価値

自分が自分を生きる
(生涯学習)

C F C I の理念を基盤に

こどもにやさしいまちづくりプロジェクトチーム

<安平町が目指す個人と社会の姿>

『生涯にわたって希望を抱き、様々な困難や課題にぶつかりながらも、自らの道を他者と協働し、自らの選択と行動によって切り拓き、歩んでいく』

『他者やコミュニティに対して、互いに尊重し、ジレンマを対話と協働によって乗り越え、新たな価値や方策を生み出し、ともに支え合う社会』

日本一の定義:

安平町が大切にしたい価値に対する各々の主観的認識による判断
→町民それぞれが「幸せだと」感じている状態。

教育の定義:

安平町が大切にしている価値観や文化、知識を公教育の範囲に埋め込み、公教育によって町民が自らの資質を育成するとともに生涯にわたって自分らしく生きていく営み。

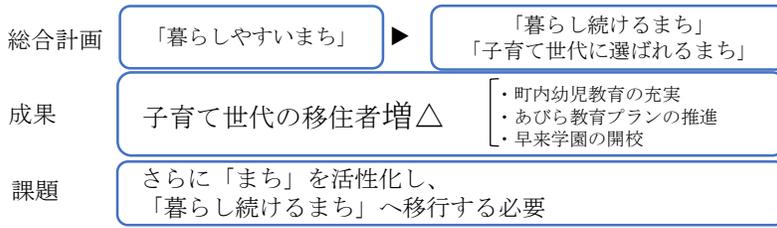
教育の対象:

教育の対象は個人ではなく公教育が展開される場となる。その場が持つ雰囲気、状況、在り方に安平町が大切にしている価値観を感じられるようにする。

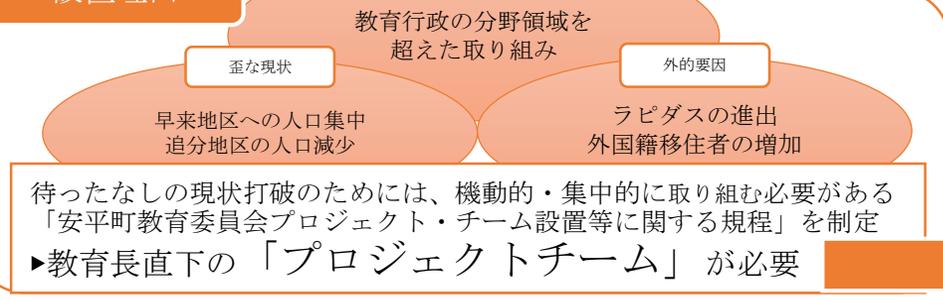


公教育の範囲:事業主体や事業対象にかかわらず事業内容が安平町の教育理念に合致し、安平町内において展開される教育事業のすべてを公教育の範囲とする。

安平町をとりまく背景



設置理由



プロジェクトチーム

- ・LPMをプロジェクトのチームリーダーとした組織
 - ・地域側のCFCIラインと学校側のCREラインの2系統
 - ・教育指導GLは行政として両ラインを横断的にサポートする
 - ・地域おこし協力隊は民間事業者等と連携し業務を進める
 - ・民間事業者は地域おこし協力隊の任期終了を見込みながら地域活動にあたる
 - ・プロジェクト終了後は地域おこし協力隊の部分を民間事業者または地域人材が担う
- メンバー
- ①チームリーダー（プロジェクトマネージャー）2名
 - ②地域おこし協力隊 6名～
 - ③任期付き職員 2名～3名
 - ④行政職員 8名
 - ⑤外部協力メンバー 8名

プロジェクトの目的

- ◎子育て・教育を核とした地域活性化
子育て・教育分野で、地域や自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動で道を切り拓く大人を増やす。
- ◎あびら教育プランをきっかけとした「社会に開かれた教育課程」と「生涯学習社会」の実現
学校や地域において、子どもや大人が自分の所属するコミュニティや自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動によって道を切り拓く経験をする機会をつくる。

目標

- ①学校運営協議会の活性化
- ②地域学校協働本部の運営と活性化
- ③町立学校の魅力化
- ④CFCIの普及と実践
- ⑤社会課題解決へ向けた民間活力および住民主体による取り組み
- ⑥産前産後および幼年期の子育て環境の充実

目指す成果（アウトカム）

- 『子どもが育つまち』の実現
- ◎暮らしやすいまち、暮らし続けるまちを主体的につくる大人が増え、市民活動が活性化する。
 - ◎公教育の魅力が高まり、町全体的に子育て世代の移住と出生数が増える。
 - ◎公教育が充実し、多世代にわたって自分らしく生きる町民が増え、福祉ニーズが減少する。
 - ※公教育＝学校教育、社会教育、子育て

＜課題解決の方向性＞

自らの選択と行動で道を切り拓く大人を支援



安平町で挑戦する大人たち

- ▶その姿を子どもたちが見る
- ▶学校や地域で子どもたちが同様の経験を積む機会を提供
- ▶子どもと大人、学校と地域がつながり、まち全体が活性化



安平町で育つ子どもたち

CFCI※の理念を基盤に

※Child Friendly Cities Initiative＝「子どもにやさしいまちづくり事業」のこと。
子どもにやさしいまちでは、子どもたちがまちの活動に活発に参加し、彼らの声や意見が考慮され、まちの決定や手続きに反映されることが重要と位置づけています。安平町では、2021年12月17日、日本で初めて「日本型子どもにやさしいまちモデル」実践自治体として、承認されています。安平町は「子どもにやさしいまちづくり」を「子どもがあたり前に意見できるまちづくり」、「子どもたちが安心して遊べるまちづくり」と捉え、子どもたちが主人公のまちを目指しています。

業務推進体制

- ・当町では、地域・行政・民間（専門家含む）に、さらに学校・子ども園を加えることで、子育て・教育を核とした当町の戦略特色を色濃く反映させるものである。
- ・学校を設置する行政、学校を支える地域、各領域で事業推進力を持つ民間、そして教員自らが参画することで、自組織が取り巻く環境を見つめ直し、チャレンジし合う、支え合う庁外における水平方向の体制の構築も並行して進める。
- ・このプロジェクトチームを実質的にマネジメント（管理運営・橋渡し）していくのが、ブリッジ人材としてのLPMの役割と捉え、中心に据えている。



業務範囲（スコープ）

プロジェクトの範囲

本プロジェクトは安平町総合計画を上位計画とする生涯学習計画の実現に向けたものであることから、プロジェクトの範囲は生涯学習計画に記載されている分野および領域に関わるものとする。ただし、プロジェクトメンバーとして配属される他課職員担当の領域については担当課と連携し、各課の個別計画等に基づき、その範囲内においてプロジェクトの目的として合致する業務を協働して取り組むことができる。

※プロジェクトチームは下記の地域学校協働本部を軌道に乗せる主体も担う。

地域学校協働活動の概念図

より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成。

